

徒然なる1ページ2014

～俳句へのいざない～

俳句 夏の季語 下巻

FACEBOOK 投稿分

公益財団法人大谷教育文化振興財団

徒然なる1ページ制作チーム

『徒然なる1ページ 2014 ～俳句へのいざない～』は2014年(平成26年)FACEBOOKに投稿した日本独自の文化である俳句の季語を季節(春・夏・秋・冬)ごとに、それぞれ3巻(上巻・中巻・下巻)にわけて刊行しております。

七月六日

今日の季語のご紹介は“土用鰻”(どようなぎ)です。

土用の丑の日に鰻をいただいて精をつける!これは平賀源内が発案したとも言われています。

七月七日

今日の季語のご紹介は“夏の空”(なつのそら)です。

日光みなぎる夏の空。夏天(かてん)といえば、ジリジリと肌を焼く太陽が想像できますね。

七月八日

今日の季語のご紹介は“夏の風邪”(なつのかぜ)です。

夏は寝冷えなどで、うっかり鼻風邪をひいたりします。最近、朝晩の気温の変化が激しいので、皆さんも夏の風邪にはお気をつけ下さい。

七月九日

今日の季語のご紹介は“繭”(まゆ)です。

俳句では春蚕が作った繭をいいます。

最近では、富岡製糸場の世界遺産登録に伴い、蚕も注目されるようになりましたね。

七月十日

今日の季語のご紹介は“ソーダ水”(ソーダすい)です。

飲料水に炭酸ガスを飽和させたもので、シュワシュワとした喉ごしが夏にぴったりの飲み物ですね。

七月十一日

今日の季語のご紹介は“金魚”(きんぎょ)です。

原産地は中国で、フナが突然変異したものを鑑賞用に改良し、今日では和金・琉金・出目金など様々な品種が見られるようになりました。

夏祭りの金魚すくい、子供時代の思い出に残っている方も少なくないでしょう。

七月十二日

今日の季語のご紹介は“夕立”(ゆうだち)です。

夏のわか雨で、夕方降ることが多い。

炎天下のあとの夕立で緑が生き生きとする様子は、いかにも涼しげですね。

七月十三日

今日の季語のご紹介は“蟬”(せみ)です。

梅雨明けとともに、一斉に鳴き出す蟬は、夏の風物詩ですね。この様子を「蟬時雨」ともいいます。

七月十四日

今日の季語のご紹介は“豌豆”(えんどう)です。

中国より伝来し、栽培されるようになりました。初夏に莢を結び、未熟な莢のままいただく「サヤエンドウ」、むき実をいただく「グリーンピース」など、呼び方が変わるのも特徴ですね。

七月十五日

今日の季語のご紹介は“蝙蝠”(こうもり)です。

日暮れになると、どこからともなく現れて空を自由に飛び回ります。

最近ではハロウィンのイラストでよく目にしますが、夏の季語に分類されます。

七月十六日

今日の季語のご紹介は“夏蜜柑”(なつみかん)です。

三メートルくらいになる常緑低木で、大きな実を結びます。酸味が強い果実ですが夏の味覚のひとつで、生食以外にもマーマレードの材料として用いられたりもします。

七月十七日

今日の季語のご紹介は“天道虫”(てんとうむし)です。

半円形の小さい甲虫で、赤地に黒い斑点がとても愛らしく、紅娘と表記されることもあります。

庭木や野菜につく虫を食べてくれる益虫です。

七月十八日

今日の季語のご紹介は“冷麦”(ひやむぎ)です。

小麦粉から作られる麺の一種で、清涼感を求めて夏にいただくことが多い。

由来はうどんの旧称「熱麦」に対する語であるとされています。

七月十九日

今日の季語のご紹介は“菰の花”(いらのはな)です。

「菰」は春の季語になりますが、「菰の花」は盛夏に多数の小さい白花を半球形に咲かせるため夏の季語になります。独特の匂いがあるため、禅宗などの精進料理では忌避されることもあります。

七日二十日

今日の季語のご紹介は“夏足袋”(なつたび)です。
夏に用いる薄手の一重の足袋をさします。

七日二十一日

今日の季語のご紹介は“手花火”(てはなび)です。
手に持って遊べる小型の花火をさします。
線香花火やススキ花火など種類も豊富で、夏の夜を彩ってくれます。

七月二十二日

今日の季語のご紹介は“簾”(すだれ)です。
竹や葦(よし)などを編んで作られた仕切りで、窓の外や軒先に吊るし日よけや虫除けに使われます。
古くは「万葉集」にも謳われており、日本の夏の風物詩でもあります。

七日二十三日

今日の季語のご紹介は“茄子漬”(なすづけ)です。
旬の茄子を浅漬け・塩漬け・粕漬け・辛子漬けなど多彩な漬け方があります。

七日二十四日

今日の季語のご紹介は“雲海”(うんかい)です。
雲海とは、山や航空機など高い位置から見下ろしたとき、雲がまるで海のように見える現象です。
山で見られる雲海は、山間部などでの放射冷却によって夜明け前から早朝に見ることができます。

七月二十五日

今日の季語のご紹介は“水馬”(あめんぼう)です。
カメムシに分類される昆虫のうち、針金のように細く長い足があるものの総称です。
捕まえると、飴のようなニオイを放つことから、「あめんぼう」と名付けられたとも、いられています。
水の上を器用に渡り歩く姿は、忍者のようでとても可愛いですね。

七月二十六日

今日の季語のご紹介は“冷酒”(ひやざけ)です。
冷たくひやしていただく日本酒のことです。
日本酒の飲み方には、温めていただくお燗・常温でいただく冷や・ひやしていただく冷酒の三種類があります。

七月二十七日

今日の季語のご紹介は“風鈴”(ふうりん)です。

日本の夏、軒下に吊り下げられる小型の鐘鈴です。鉄製・ガラス製・陶製など、材質によって音色が変わるのも楽しいですね。

七月二十八日

今日の季語のご紹介は“ラムネ”(らむね)です。

日本で広く愛飲されている清涼飲料水です。明治初期に神戸居留地で初めて製造・販売が始まりました。独特の形の瓶の中で、キラキラと光るビー玉・シュワシュワと泡立つ炭酸を見ているだけで涼をいただけますね。

七月二十九日

今日の季語のご紹介は“海月”(くらげ)です。

海水浴の時など、ふわふわと浮いている姿をよく見かけます。

透明で綺麗な見た目に、つい手を伸ばしたくなりますが、毒をもったクラゲもいますので、十分に注意が必要です。

七月三十日

今日の季語のご紹介は“合歓の花”(ねむのはな)です。

合歓の木は、山や河原に自生しており、細かい葉が夜間は閉じるので「ネムの木」と名付けられたそうです。淡紅色のおしべが長く美しい花をつけ、桃のように甘い香りを放ちます。

七月三十一日

今日の季語のご紹介は“金亀子”(こがねむし)です。

童謡でも歌われており、昔から日本ではなじみ深い昆虫ではないでしょうか。通称として「かなぶん」とも呼ばれます。

八月一日

今日の季語のご紹介は“打水”(うちみず)です。

打水とは、道路や庭先に水をまくことで、埃をおさえたり、気化熱で涼しくなる効果があります。打水には場を清める神道的意味もありますが、最近では、自治体のイベントとして行われたりもしていますね。

八月二日

今日の季語のご紹介は“蚊帳”(かや)です。

害虫から身を守るためにつるす網で、主に就寝時に用いられます。最近の日本ではあまり目にするものがなくなりましたが、エコロジーの観点から、最近、また見直されてきています。

八月三日

今日の季語のご紹介は“夏木立”(なつこだち)です。
まぶしい太陽のもと、緑濃く茂る夏の木々をさします。

八月四日

今日の季語のご紹介は“水鉄砲”(みずでっぽう)です。
水鉄砲とは、水を噴射するように作られた玩具です。最近では、竹筒にあけた穴から水を押し出す水弾(みずはじき)から、ウォーターファイトと呼ばれるぐらい強力なものまで、いろいろな種類があります

八月五日

今日の季語のご紹介は“冷素麺”(ひやそうめん)です。
素麺とは、小麦粉を原料とした細い麺で、太さ 1.3mm 未満のものをいいます。
夏に清涼感を求めて、冷やしていただくことが多いのではないのでしょうか。
添える薬味によって、風味がかわるのも面白いですね。

八月六日

今日の季語のご紹介は“昼顔”(ひるがお)です。
朝顔同様、朝開花するが昼間も咲き続けることから、こう呼ばれています。
花言葉は「優しい愛情」「絆」などがあります。

八月七日

今日の季語のご紹介は“鶺鴒”(う)です。
大形の水鳥で、上面は黒や暗緑色などの暗色の羽毛で覆われており、素早く潜水することができます。
鶺鴒で活躍している鳥、と聞けば、皆さんもすぐに思い浮かぶのではないのでしょうか。

八月八日

今日の季語のご紹介は“天花粉”(てんかふん)です。
キカラスウリの根から採取した澱粉が主な成分で、汗疹の予防に用いられたりします。あの独特の香りを懐かしいと思う方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

八月九日

今日の季語のご紹介は“熱帯魚”(ねったいぎょ)です。
熱帯地域に生息していますが、観賞魚として日本でも飼育されています。色鮮やかな姿で、優雅に泳ぐ姿に目を奪われることがありますね。